



水遊びであれこれ発見

年少 たんぽぽ組



天気が良く気温が高い日に水に触れて遊ぶのは、実に気持ちが良いものです。

保育者がベビーバスに水を溜めていると、「何しているの？」と一人、また一人とやってきて、水が溜まる様子を見ている。時折、自分の顔に水しぶきが飛んでくるのを期待している子、勢いよく水がでてくる様子を「怒っているみたい」と表現し顔を背ける子、水が溜まるまで待ちきれずジョウロやペットボトル、穴あき容器などで水を汲み始める子など姿はいろいろですが、水の周りにはいる子どもたちはなんだか楽しそうです。

ある日のこと。裸足になって外に出る前に「水遊びに使いそうな道具を探しに行こう」と保育者が子どもたちに声をかけました。「行く！」とウキウキした様子で保育者と一緒に階段を駆け上り、素材がたくさん置いてある部屋へ行きました。「使いそうなものあるかな…」とあたりを見回しながら見つけてきたものは、空き箱、太い筒、ガチャガチャ容器、保存袋、細い管、プチプチシートなど、普段水遊びにはあまり使わないようなものばかりです。

いざ遊ぶ場面で、これらの素材をどう使うのでしょうか。Aちゃんは「箱がぐにゃぐにゃになっちゃった」と水で柔らかくなった箱を見せてくれました。Bちゃんはペットボトルの水を細い管に流し入れようとしますが、ペットボトルの口の方が大きくて水がこぼれるばかりで、細い管にはほとんど水が入りません。地面に置いたプチプチシートに向かって高いところからペットボトルの水をかけていたCちゃんは、「雨みたい」と水を打つ音に気づきました。

子どもたちは繰り返し遊ぶ中で、気づくことがあります。新たな発見に出会うために、今日も遊びは続きます。 (教諭・阿部和香子)





お祭りでわくわく

年中 ぞう組

先日、たか1組さんが、お祭りを開いてくれました。お誘いをもってから念入りにお金を用意し、下見をしながら買いたいものを探して、準備万端に当日を迎えました。当日は、待ちきれない様子でお財布と手提げ袋を持ち、朝からそわそわわくわくしながら、お祭りが始まるのを待っていました。

子どもたちはお神輿の登場に大興奮し、開店と同時に目当てのお店へ並びました。欲しいものはあるけれど、ドキドキしてなかなか「これください」と言えない子がいます。その様子に、年長さんが「どれが欲しい？これ？」と優しく聞いてくれます。どの子も欲しいものが買えたようです。緊張気味の表情を浮かべていた子も、ぞう組に戻ってくると買ったもので遊び始めました。「すっごく楽しかった！」「お礼がしたいの」「明日、ぞう組でもお祭りするの」と大張り切りです。

売りものは何も用意していません。でも、子どもたちの中に感動と喜びがあったのでしょう。翌日、すぐにお神輿づくりが始まりました。「お礼がしたい」という気持ちに共感した仲間たちが集まって、売するための品物づくりも始まりました。子どもたちのつくるものをみると、昨日、たか1組さんが売ってくれたものと似ています。自分たちでできることを考えて準備を進めていました。



こうやって憧れの気持ちと嬉しい気持ちを仲間と共にかたちにしてお礼をすることができ、子どもたちは満足そうでした。大きい人に憧れ、心動かされ面白いと思ったことをすぐに吸収して自分たちの遊びにしていく——このお祭りは子どもたちのエネルギーが湧き出した出来事でもありました。嬉しかった気持ちは、このようにして受け継がれ、いつまでも子どもたちの中に残っていくのだと思います。たか組さんありがとう。（教諭・深田美智子）



梅っこひろばで誰もが真剣

6月29日の梅っこひろばでは、たか1組はお神輿をかつぎ、ぞう組を招いて「お祭り」を、たか2組はきりん組を招いて「おみせやさん」を開きました。念入りに準備された品物やおみせを前に、年中さんは熱心に品定めをしています。店員さんもおめかししたり、試着で購入を勧めたりして、誰もが真剣です。参観に来られた小平一小の先生方もおみせの出来映えと、子どもたちのやりとりに感心されていました。

